

2021年度 活動方針

●はじめに

昨年度は、新型コロナの影響で世の中の環境が大きく変化し、この環境変化を先取りしないと生き残れない時代に入りつつあります。この危機をチャンスに変えるスピーディな活動が出来なければコーダイに明るい未来はありません。まさに「時は今」なのです。

このような環境下でコーダイは大きく変化しようとしている、あるいは変化の兆しが如実に実感できる状態を創り出すことが急務であり、そのための「ニューコーダイ創造」活動を推進します。そして、次のコーダイを担う60代の若手、70歳前後の中堅が大きく育つ環境を創りながら、次の世代にスムーズにバトンタッチができる様に進めていきます。一方では、高齢者には「学び」だけでなく「仲間づくり」「健康づくり」の上でもコミュニケーションの場と適度な運動は必須です。このコーダイの大きな特徴を常に念頭に置きながらコーダイ運営に携わること、また、あまり成果の出ていないもう一つのコーダイの柱である「人のお役に立つ活動」を積極的に推進できる体質にすることが大切です。同時にOKALS-V活動方針を堅持します。

With コロナはまだまだ続きますが環境が変わろうともこのコーダイの柱を大切にし、生涯学習校として明るい未来を切り開いていくことが我々スタッフの使命であり、同時に取り巻く環境変化に対応するスピードと環境変化を先取りする思考と行動力が今、コーダイに求められています。

●基本方針

1. 中堅・若手の登用・育成を積極的に推進し、人材の若返り・組織の新陳代謝を図りながら、次世代にスムーズなバトンタッチが出来る様に取り組みます。
2. コーダイは13期目を迎えますがWithコロナでコーダイ運営は大きく変わります。コロナ対策によるコストアップ問題、割安で広い教室の確保問題、30名前後の少人数科目の問題、短期講座の増大、リモート講座への対応等の対策を進めていきます。
1. ニューコーダイ創造(コーダイを変える、コーダイが変わる)プロジェクトを立ち上げ、共に考え、共に行動するという観点で我々事務所スタッフが先頭に立ち、全校一丸となってニューコーダイ創造活動を推進します。
そして、各部門、各グループ及び各人が毎年同じことを繰り返してするのではなく、少なくとも1項目、あるいは1テーマ以上、新しいことに挑戦し、また、改善を加えていくことでニューコーダイ創造活動を加速していきます。
4. 将来を見据えて新しく出来たオンラインサロン等を活用し、オンラインに関するノウ

ハウ・技術の蓄積と情報の共有化を積み重ねていきます。また、研修制度を積極的に導入しながらデジタル時代に相応しいオンライン講座、オンライン会議やインターネットを活用した効率的な活動施策などを順次導入し、多様化する学習や活動内容の変革を進めます。

5. ファンディング対策に正面から取り組みます。受講料だけでの運営では厳しく、企業へのアピールと理解により、法人の正会員を増加させる仕組みづくりを行います。そして、コーダイ内はもとより、一般からの正会員加入や寄付金を増加させます。
目標 1,000 万円（現在 240 万円）／年間。
6. OKALS-V 活動をさらに進め、全国の団体、自治体への PR、浸透を図り、コーダイ学習方式の浸透やコーダイファン化を創出します。
7. ニューコーダイ創造のキーとなる教育部門は現場中心の活動を担い、目配り・気配り・心配りでスピーディかつタイムリーな現場対応を推進しながら CD との一体感を醸成していきます。同時に教務部長を増員し、積み残して来た課題解決に取り組みます。また、自主活動やイベント内容の検証とサポートをしっかりと行い、CD と協働して快適な学習の場の構築に努めます。
8. 総合企画部門から独立した戦略企画室は理事長直轄として、理事長方針をスピーディに具現化し、積み重なっている直近の課題改善を関連部門と協働して行います。同時にニューコーダイ創造の要となる企画や第 2 次の 5 年先を見据えた戦略（子どもから高齢者まで笑顔と活力で満ち溢れる生涯学習校）策定とアクションプランのサポート等を行います。また、S プロを復活し、「割安で広い教室」の確保を図ります。
9. 教科研究部門は昨年度の現状を直視し、先を見据えた科目揃え、科目力アップや科目の新陳代謝を図ります。
そして、多様化する受講生ニーズを先取りしながら短期講座、オンライン講座など時代の要求や学習の多様化に対応すると共に絶えず質の向上に努め、ソフト面での快適な学習の場の提供に注力します。
また、講座改革委員会は分野別専門部会の活動を強化して衆知を集めながら、データの蓄積や魅力的な講師発掘のネットワーク構築と情報の共有化を行い、数年先を見据えたカリキュラム構築制度の検証・改善を推進します。
10. 事業部門は従来事業の洗い直しを行い、参加者を魅了する事業、参加者の満足度を高める事業、多くの方が参加したくなる、あるいは協働で活動したくなる様な事業、そして、儲かる事業の構築を図ります。
BSC は長年抱えてきた課題の洗い出しと検証を行い、活動を活性化させていきます。また、教育部門と連携して、あまり成果の出ていない社会へのお役立ち活動の検証を行いながらコーダイ提案型システム構築をサポートしていきます。
11. 情報管理部門はコーダイのネットワークシステムに関するインフラ整備を検証し、業務の効率化・オンラインの活用を目指したネットワーク化の促進を図りながらコーダイに相応しいデジタル化を進めていきます。
また、オンライン研修の中核として、他部門と協働してコーダイのオンラインに関する

るレベルアップに努めます。

- 子ども事業部はスタッフ、受講生、OB等コーダイ関与者間の連携をさらに深め、これから世代の子ども達に楽しみながら学べる場の提供を推進していきます。

また、学習内容の充実、学べる場の拡充も図って行きます。

- 経理部は月別予算・先行き見込みの精度アップ等を図るシステムを運用し、組織にマッチした財務システムの強化を進めます。同時に各部門長が自部門の経費について、しっかりと管理できる体制構築を行います。

事務局は縁の下の力持ちとして各部門・CD・受講生等に、よりきめ細かいサポートを行います。また、各部門と協働・連携して重要書類の整備と管理を徹底します。

- 広報部は一般市民に対してコーダイをアピールする活動（一般市民に訴求できるパブリシティ）の促進を図ります。また、機関誌、パブリシティ等を含めコーダイカラーの統一化を検証します。

ファンド部は寄付金獲得と寄付金制度を見直し、新たな仕組みを構築して寄付金アップを図ります。

- 関西シニア大学校、大阪シニア大学校交流会を支え、幅広い活動で更なる深化を追求します。結果として、大学校のレベルアップにつなげます。

- 校友会、大阪区民・府民カレッジと協調し、コーダイグループの強化を図ります。

- 養父市との連携協定は継続します。一方で、東日本復興支援大学校は10年を区切りとして幕を下ろしますが、物産店などを通じて今後も支援は続けます。

最後にコーダイは「ニューコーダイ創造」という大きな改革にチャレンジします。しかしながら、目の前にはやらなければならないことが沢山あります。

それは一人ではできません。皆さんの協力と支援が必要です。残された時間は余りありませんが改革のスピードは求められます。

結果を焦り過ぎず、前のめりにならず、地に足をしっかりとつけ、一步一步着実に目に見える様な結果を出していきたい。

そして、「コーダイを変える、コーダイが変わる」という実感を皆さんと共に味わえる様な活動を継続しながら、次の世代にしっかりとバトンタッチをします。

●戦略企画室

- 総合企画部門から独立した戦略企画室は理事長直轄とし、方針の具現化をスピーディにし、課題改善を関連部門と協働し実施していきます。
- ニューコーダイ創造の要となる企画案や第2次の5年先を見据えた戦略「新・中長期5ヶ年計画」の創案づくりとアクションプランのサポート等を行います。
- また、Sプロを復活し、快適な学習環境の確保を目指します。
- 「首都圏・関西圏シニア大学校交流会」（兵庫県）、「大阪シニア大学校交流会」のメンバー校として、課題解決のため、情報交換を行います。
- また、大阪府主催の「阪神奈ネット（大学・研究機関）」に参画し、構成員校との講師

交流も目ざします。

6. 「OKALS-V」の浸透を図るため、引き続きコーダイ内外への周知活動を行います。

●教育部門

<教務部>

教育部門はバランスを考えて、CDの皆さんと協働し、発展的長期展望を持って各種施策の企画立案をしていきたいと考えます。

実務的には現場中心で開かれた教育部門を目指し、スピーディな現場対応とCDの皆さんと一体的に行動できるよう検討を重ね、進めていきたいと考えます。

コーダイは13年目を迎え、「ニューコーダイ創造」活動を推進するにあたり、NPO設立時からの理念をコーダイの正会員と共に深め、受講生に理解頂けるよう努めたいと考えます。

コーダイの理念

1. 私たちは仲間と楽しみながら学習します。
 2. 私たちは何よりも自らと仲間の趣味を大切にします。
 3. その趣味を仲間と共に深め、更に広げて外部の人と共に楽しみます。
 4. 地域のまちづくりを行政、市民などと協働して実施します。
 5. 私たちは活動を通じて、自らの健康づくり・生きがいの充実を図ります。
 6. そして、私たちはシニア世代の責任として地球環境問題に積極的に取り組みます。
- この理念の浸透を図り、全校が同じ方向を向いて歩んでいけるよう努めたいと考えています。

コーダイ理念の基「ニューコーダイ創造」を活動推進するために

1. CDと教務の協働

仲間と楽しみながら学習するために、現場中心で快適な学習の場の創造を目指します。具体的には、教務メンバーとCDの皆さんとが、日々のクラスの状況などを雑談できる時間や機会を持ちたいと考えます。

2. CDと共に歩む

タイムリーな現場対応をスピーディに図りたいと考えます。

そのためには、「講座実施報告書」の一両日中の提出をCDに心がけて頂く。

「一口レポート」は速やかに、遅くとも3日以内の提出をCDに心がけて頂く。

「相談事」には問題の小さいうちに、早い目の回答を心がけます。

「CD研修」の充実を図り、ともに歩めるようスキルアップを図る。

3. クラス運営のサポート

部門として全校に「目配り、気配り、心配り」を常に意識して対応すると共に、クラスの世話役としてのCDの皆さんには、教務の一員としての心構えで対応をお願いしたいと考えます。

そのためには、教育部門はもとより教務主任やCDの皆さんに、コーダイ理念の基に

同じ方向性を持ち、揃って前進できるよう努めたいと考えます。

4. 自主活動やイベントのサポート

コーダイ理念を具現化した「自主活動」を実施するにあたり、CDへのサポートを進めていきたい。同時に先送りとなっている「社会参加活動などの事例提供」などについて、比較的早い目に対処できるよう努めていきたいと考えます。これらを進めることにより、成果の見えない「人のお役に立つ活動」を積極的に推進できる体質への転換を図り、その必須要件であるコミュニケーション力の向上と適度な運動による健康・体力維持を図り、その活動を推奨していきたいと考えます。

新年度の講座運営は、本科・実践科を併せて61科となります。

講座回数は36回（授業は26回）となります。

時間割を見直し朝の講義開始時間は、従来の10時開講から朝のラッシュアワーを避けて、原則10時30分開講としました。夕方のラッシュを避けるため、午後の自主活動の時間を30分短縮を図り、従来通りの15時下校としました。

クラブ活動についてはコロナ禍であり、情勢が落ち着き活動できると判断できる状態となるまでは、引き続き活動を自粛していきたいと考えます。

昨年度はコロナ禍でコーダイのモットーである学ぶこと、仲間づくり、健康づくり等の意思疎通を図るための行動が極端に少なくなった特別な年でした。

新年度もコロナ禍での活動、行動制限がどの程度の影響を受けるのか先が読めませんが、関係者間の齟齬が少なくなるよう努めていきたいと考えます。

ご協力よろしく申し上げます。

<教務事務部>

教務部から回付される講座実施報告書などの書面を元に、謝金等の計算など教務部の後方支援を確実にし、スムーズな学校運営に協力したい。

<学習事業推進部>

学習事業についてビッグイベントである「ジョイフルゲームズ」は、長居陸上第2競技場で10月14日（木）開催する運びとなりました。また、「コーダイフェスタ」については、曜日別開催として、11月15日（月）から19日（金）までの5日間、教育会館7階ホールをメイン会場として実施することにしています。

<校友会連絡部>

ニューコーダイ創造の精神に則り、校友会に対する受講生の理解・関心を深める為の活動を増進し、校友会団体それぞれの活動を活発化し、コーダイ及び地域での結びつき、理解を深め、同時に各地域においてコーダイをアピールいたします。校友会へのより確かな関心を促進すると共に、コーダイとの両輪の意識を促進し、入会に結びつけるよう努力いたします。

●教科研究部門

総合企画部門は教科研究部門に改組され、教科研究部を主管します。2021年度の活動は以下

の通りです。

1. 昨年度の現状や課題を踏まえて、先を見据えた科目揃えや科目力アップ、科目の新陳代謝を図ります。
2. 多様化する受講生のニーズや企業等の定年延長や働き方改革に伴ない高齢者の雇用が進み、従来のような「学び」から多様化や変化があり、それらへ適格に対応していくことが求められます。そのために短期講座、オンライン講座などを実施します。
3. 「先駆的なカリキュラム」と「魅力的な講師の発掘」を最優先的課題として講座改革委員会を機能していき、魅力のある講座構築を図っていきます。
4. その基盤として、分野別専門部会の活動を強化、活発化させていきます。データの蓄積や魅力的な講師発掘を目指し情報の共有化を行います。
5. 数年先を見据えたカリキュラム構築制度の検証・改善を推進します。カリキュラムのテーマや講師、授業スタイル等の検討を行い、魅力的な講座を構築するようにしていきます。

●事業部門

2021年度より事業部内の事業企画と事業開発を統合の上、事業推進とし、BSC（ブライトシニアセンター）との2ブロックとしてスタートいたします。ニューコーダイの土台作りの一助となることを目指します。

受講生が魅力を感じ、参加したくなるような事業が目標です。

<事業推進>

コーダイの仲間と楽しい時間を共有する行事を選択できる、例えば校外学習のコースを複数設定するなどを検討していきます。音楽会の企画もより多くの受講生が興味を持たれることを主眼にします。

また、これからの安全安心な生活の手助けとして救命救急措置・詐欺被害防止対策の講習は、大阪府に依頼いたします。

養父市との学習事業連携は継続いたしますが、新たな発展へ向けた見直しを進めていきます。

東日本復興支援活動は10年経過を機に東北訪問は終了といたしますが、物産展を通じての援助等は検討余地があると考えます。

収益を伴う事業の構築は、事業部のもう一本の柱として発展させるべく研究、検討を重ねていきます。低価格での水・お茶の販売や語学講座の実施など既にある実績を土台にして、企業との連携による事業ができないかなどを模索します。

<BSC>

コーダイ自らの社会参加活動を本格化させるための一歩を踏み出したいと考えております。これまでのクラス内ミーティングやアンケート結果から、地域貢献活動をされておられる受講生は優に50%を越えます。皆さんに力を貸して頂きながら具体化に向け努力いたします。

各クラスの特徴を活かした地域貢献活動などを一緒に考えて行くのも一例です。

地域貢献活動中、あるいは活動予定の受講生を対象とした支援（活動奨励金の付与、活動に対する表彰）については、問題点・課題の洗い直しをまず徹底することになります。

また、ボラバス（ボランティアバスツアー）は20年度中止にしましたが、今期は単なる

見学ツアーではなく参加型も視野に入れ検討いたします。
SA（シルバーアドバイザー）養成講座は今年度は2科目で開講いたします。
社会での活動が制限される中で、受講生の大阪府の認定に向けた種々の作業に困難が伴うことも予想されますが、できる限りの支援を行っていきます。

●子ども事業部門

1. 「法円坂子どもプラザ」科学ともの作り体験型教室は2クラス60人で年間6回開催します。
2. 「子どもプラザ高槻」「子どもプラザ堺」は科学ともの作り体験型教室を開講します。
3. 「科学フェスティバル」は3会場にて実施します。大阪（法円坂）・高槻と堺にてそれぞれ開催します。
4. 伝統文化、いきいき教室、長居公園子ども事業等に取り組みます。

●情報管理部門

<システム部>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講決定後、入学案内など発送し、受講生名簿、名札など入学準備の体制づくりを行います。
 2. 受講生、講師、スタッフのデータベース化して個人情報の管理運営に努めます。
 3. ホームページでは動画活用及び内容の充実とビジュアル化と告知・報告のスピードアップに努めます。
- また、募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信します。

<デジタル推進部>

1. コーダイネットワークシステムに関するインフラ整備を図り、デジタル化を進めていきます。
2. オンライン研修を中核にして他部門と協働して、オンラインに関するレベルアップに努めます。
3. オンライン会議、オンライン講座の促進を務めます。

<情報処理部>

1. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書と皆勤証書の発行を行います。

●広報部・ファンド部門

<広報誌>

広報誌「れいんぼー」を通して、学校運営、各イベント、各講座の活動状況など多くの情報を提供し、受講生、関係機関等との連携を密に図ります。
また、広報誌、チラシ等のコーダイカラーの統一化を検証します。

- ・年4回（1、4、7、11月）発行、基本ページ数16ページ
- ・新規掲載記事の構築（ボランティア活動、私の一冊、お役立ち情報等）
- ・在宅ボランティアの育成（文字校正等依頼）

<パブリシティ>

昨年に引き続き積極的にマスメディアとの協力体制を強化し、受講生の協力を要請してコーダイの知名度アップに努めます。

他部門に積極的に働きかけを行い、プレスリリースの情報発信力の強化及び発信数アップに努めます。

各部門でバラバラに作成しているプレスリリースをコーダイカラーで統一するための勉強会をリモートで実施します。

<企業対応>

関経連加盟の11社及びそのOB会への広報活動の継続と新たに其々の会社のCSR担当部署へのアプローチを開始します。また、受講生の現役時代の会社の紹介を貰い関係づくりを図ります。

<ファンド部>

既存の活動、賛助会員・正会員・法人会員の拡大、充実をより一層図っていきます。

その他諸々の活動を問う事で、コーダイの組織力の発信につながり、新しい開拓が出来るように努めます。

ファンドレイジングは、コーダイが自主活動をする上で必要な資金調達、達成のための重要なツールです。コーダイをトータルに応援して頂けるように努めます。

●総務部門

2021年度は講座61科目を7教室（教育会館、社会福祉会館、なにわのみやホテル、住之江公園、助産師会館、寺田町、梅田）で、より良い受講環境の改善計画を立てます。

新型コロナ感染拡大に伴い、計画に当たっては「密閉・密集・密接」の3密の解消を念頭に置いて選定します。また、安心・安全を最優先に考え全校でコーダイ関係者（講師、スタッフ、CD、受講生、OB、出入り業者等）の感染予防対策を徹底します。

<経理部>

2020年度はコロナ禍で大変な年となり、コーダイも大打撃を受けました。

休校になった日程の補填に始まり、「三密」を避ける為により広い教室、備品等の確保で経費支出が激増しましたが、今年度も引き続き対策が必要となります。

また、受講料収益も定員減に伴い大幅な減収となり、さらに厳しい状況が続きます。

今年度の取り組みは経費削減を念頭に財務の立て直し、月次管理を行い予算と実績の精度向上に努めます。

<事務局>

- ・本年度も昨年度に引続き新型コロナ感染症対策の徹底に努め、一年間授業が続けられるようにする事が最重点課題です。
- ・東南海トラフ地震の発生切迫性が取りざたされており、防災体制の整備が必要です。従来の避難訓練一辺倒の防災対策から、地震津波等の災害想定の下、各教室の地域環境

に合った訓練並びに日常生活の上で、役に立つマニュアルの再整備をいたします。

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症対策を睨み、現状確保出来ている 7 拠点体制下で、安心して受講いただける最大定員で募集活動をいたしました。残念ながら昨年度より 2 割強の募集人員を減らさざるをえませんでした。

受講を希望される方々に大変ご迷惑をお掛けいたしました。引き続き、受講希望者のご満足いただける教室の確保に努めます。

●募集委員会

受講生募集に関する環境はコロナの影響で大きく変わりました。

コーダイを受講しようと考えておられる方々の不安や戸惑い、教育環境の抜本的改革の必要性などです。

募集定員の減少を踏まえ、より魅力ある講座の開拓、短期講座の充実、そして、オンライン講座が受け入れられる体制づくりなどを講座改革委員会と連携して検討し、募集活動に結びつけていきます。

多岐に亘る分野での経験豊かな講師陣による授業、仲間づくり・健康づくりを主眼とした時間帯の設定など、コーダイの魅力を一人数でも多くの皆さんに知って頂く為の施策を考えていきます。

これまでコーダイに縁のなかった方々をいかに多く迎えることができるかが最大の課題です。

- ・解り易い募集案内冊子を作成し、受講生及びその知人への配布と各市町村窓口での閲覧供与や自治体の広報を依頼します。
- ・コーダイグループ組織の校友会、各地区同窓会を通じての PR。
- ・コーダイ HP からの応募申込も引き続き活用します。
自宅でなるべく簡単に操作できるような工夫を重ねます。
- ・授業の様子を実際に見て頂く、教室見学会の実施を検討します。
- ・府内各地区での講座相談会は重要であり、会場選定や内容の決定を慎重に行います。
開講する講座の内容の発表から申込受付までの間に、応募を希望される方の疑問や質問に丁寧な答えられるよう一層の努力をいたします。
コーダイでの時間を楽しもうと思われた全ての方に受講して頂くことを目標に、種々の手続運用に万全を期したいと思っています。

●コーダイ・なにわの宮会

1. なにわの宮会は第 4 次プロジェクトに入り、新たにスタートします。
2. 教室訪問「理事長と語ろう」は継続して行います。ニューコーダイ創造の一環として取り組んでいきます。
3. 新型コロナウイルスの感染状況によりますが、秋ごろに新入生歓迎会を行いたいと思います。イベント内容を工夫し、皆が集まり楽しめるような内容にいたします。他の行事との兼ね合いを考慮し、日程調整いたします。
4. コーダイフェスタ時に於ける物産展を開催いたします。フェスタ実行委員会との話し

合い調整の上、行います。

5. 受講生への川柳募集、「れいんぼー」への掲載をいたします。例年かなりの応募があり、楽しい作句がそろいますが、本年度も年2回の募集を行い、更に多数の応募になるようPR活動をしていきます。

●大阪万博プロジェクト委員会

博覧会協会は開催に向けて、催事事業・施設の事業者の公募や企業として共働して、新たな価値を創造するという「共創」パートナーの登録募集を始めています。コーディネートとして登録ができるかどうかを事業部門と連携して検討したいと考えています。

更に、今後協会から発信される実施方針・内容を注視していき、コーディネートが運営参加にかかわれる可能性について、引き続き検討をしていきたいと考えています。

●NPO法人大阪区民・大阪府民カレッジ

1. コロナ禍が未だ収束しない中、「感染源を断つ」「感染経路を断つ」を徹底し、安心・安全なカレッジを目指していきます。
2. 2021年度、地域密着型カレッジ、大阪区民カレッジは計7校、受講生250名、大阪府民カレッジは岸和田・泉州校を開校し計11校、受講生440名、合計18校、受講生690名を受け入れました。
3. 私たちの地元にもカレッジをとの要望も数々寄せられており、コーディネートグループ、地域の方々と共に応えていきます。
4. 財務の健全化、人材育成に務めます。